

日本道徳教育方法学会第19回研究発表大会 プログラム

期日：平成25年6月8日（土）、9日（日）

会場：上越教育大学 講301室ほか

大会事務局 〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町一番地
上越教育大学 早川裕隆研究室

共催：上越教育大学

【第1日】6月8日（土）

11:00	12:30	13:00	14:55	15:10	17:40	18:30	20:30
理事会 (人113室)	受付	自由課題研究発表 分科会Ⅰ（講201室） 分科会Ⅱ（講302室）	シンポジウム (講301室)		懇親会 (ホテルハイマート)		

会員控室（人104室）クローク（人105室）

理事会 11時00分～12時30分（人113室）

受付 12時30分～（人文棟1階エレベーター前）

自由課題研究発表（発表25分・質疑30分）

分科会Ⅰ（講201室）

司会者 柴原 弘志（京都市教育委員会）

① 13時00分～13時55分

「内面的資質を高める道徳の時間－役割演技のスタイルによる違いを中心に－」

発表者 北川 沙織（名古屋市立平針北小学校）

早川 裕隆（上越教育大学大学院）

② 14時00分～14時55分

「結末に問題のある資料をどう扱えばよいか」

発表者 服部 敬一（大阪市立豊仁小学校）

分科会Ⅱ（講302室）

司会者 渡邊 満（岡山大学）

① 13時00分～13時55分

「大乘仏教に基づく道徳資料の作成と使用法の考察（2）－白隠禅画を中心に－」

発表者 岩瀬 真寿美（名古屋産業大学）

② 14時00分～14時55分

「教育の道徳性について」

発表者 伊澤 貞治（皐月幼稚園）

シンポジウム 15時10分～17時40分（講301室）

テーマ：道徳教育の充実と言語活動の充実

企画趣旨

教育基本法と学校教育法の改正を受けて、平成20年の中央教育審議会答申では、学習指導要領の改訂に当たって充実すべき重要事項の一つとして「言語活動の充実」が掲げられ、また、「道徳教育の充実」が掲げられている。これを受けて、同年に告示された小中学校の学習指導要領でも、各教科等において言語活動の充実が求められ、道徳教育についてもその充実策が講じられた。

本学会の第17回大会において、「道徳の時間における言語活動の充実」がテーマとされたが、今回は、言語活動を道徳の時間の授業方法として生かすだけではなく、道徳教育の充実と言語活動の充実がクロスする部分で新たな試みができないかということについても検討したいと考える。

そこで、議論が拡散しないように、二つの柱を立てて検討することにした。

まず第一に、授業の具体について検討したい。道徳の時間において言語活動を充実させるということは具体的にどのようなことになるのか。その充実が、討論や討議を取り入れることだとすれば、どのような授業展開が可能だろうか。書く活動を行えばよいのだとすれば、どのような授業展開が考えられるだろうか。しかし、そうしたことはこれまでも行われてきたことではないのか。よりいっそうの充実を図るとすればどうすればよいのだろうか。シンポジウムでは、まず、シンポジストにそのような関心に即した具体的な授業を例示していただき、検討してみたい。

第二に、道徳教育の充実と言語活動の充実との関連を議論したい。言語活動を充実したとして、それは、道徳教育の充実に繋がり、ひいては道徳性の育成に繋がるのだろうか。あるいは、道徳性の高まりをもって言語活動が充実していたと評価できるだろうか。もし両者の関連に意味が見いだせないとしたなら、子どもたちはさまざまな教育活動の中で言語活動を取り入れた授業や活動に参加することになるわけだから、あえて道徳の時間において、あるいは、道徳教育において言語活動を充実させなくてもよいということにはならないのだろうか。

こうした二点を中心に、関連する諸問題を議論し、このシンポジウムの場合そのものを、充実した言語活動の場としたい。

◇ シンポジスト

中橋 和昭（石川県白山市立千代野小学校）

五十嵐 恵以子（新潟県長岡市立宮内中学校）

白木 みどり（上越教育大学）

◇ 指定討論者

上地 完治（琉球大学）

◇ 司会

林 泰成（上越教育大学）

懇親会 18時30分～20時30分（ホテルハイマート）

【 第 2 日 】 6 月 9 日 (日)

8:30 9:00

10:55 11:15

12:00 12:10

13:15

15:30

受付	自由課題研究発表 分科会Ⅲ (講 2 0 1 室) 分科会Ⅳ (講 3 0 2 室)	会員総会 (講 3 0 1 室)	<昼食> 評議員会 (人 1 1 3 室)	課題研究 (講 3 0 1 室)
----	--	---------------------	-----------------------------	---------------------

会員控室 (人 1 0 4 室) クローク (人 1 0 5 室)

受 付 8 時 3 0 分 ~ (人文棟 1 階エレベーター前)

自由課題研究発表 (発表 2 5 分 ・ 質疑 3 0 分)

分科会Ⅲ (講 2 0 1 室)

司会者 田沼 茂紀 (國學院大學)

① 9 時 0 0 分 ~ 9 時 5 5 分

「心のノート」誕生の背景に関する研究 - 1980 年代前半を中心に -

発表者 高橋 潤子 (福岡大学大学院・院生)

② 1 0 時 0 0 分 ~ 1 0 時 5 5 分

「形式的コミュニケーションによる道徳性の醸成」

発表者 鎌水 浩 (弘前大学大学院・院生、千葉県白井市立南山中学校)

分科会Ⅳ (講 3 0 2 室)

司会者 谷田 増幸 (兵庫教育大学)

① 9 時 0 0 分 ~ 9 時 5 5 分

「道徳と哲学 - P 4 C (子どもの哲学) の実践から -」

発表者 中川 雅道 (早稲田摂陵中学校)

② 1 0 時 0 0 分 ~ 1 0 時 5 5 分

「高校道徳の実践的評価の問題」

発表者 長島 利行 (茨城県教育庁)

小川 哲哉 (茨城大学)

会員総会 1 1 時 1 5 分 ~ 1 2 時 0 0 分 (講 3 0 1 室)

評議員会 1 2 時 1 0 分 ~ 1 3 時 0 0 分 (人 1 1 3 室)

テーマ：道徳の時間特設55年、いま重視したいこと・改善すべきこと

企画趣旨

道徳の時間が誕生して本年度で満55年を迎えた。その特設の指針となった文部省「道徳実施要綱」（昭和33年）には、道徳の時間について、現在と変わらない特質が既に描かれている。しかし半世紀を超えた今、国際化や情報化などとともに家庭や地域社会の教育機能が低下するなど、社会状況が当時とは大きく異なっている。また、子どもたちの心の不安定さに伴い、生徒指導上の問題も深刻の度合いを増している。そのような中で、子どもたちの豊かな生き方を創造する力を生み出すはずの道徳の時間も、硬直化して時代の変化を受け止め切れていない面もあるのではないだろうか。

現在、道徳の時間について、大きな変化が想像される。今こそ、道徳の時間の改善・充実を図るまたとないチャンスだとも言える。その中で変わらず重視すべき道徳の時間の特質や指導のあり方とは何なのか。また、新たな位置付けや性格が探られつつある道徳の時間にどのような姿を期待することができるだろうか。本課題協議では、大会1日目のシンポジウムのテーマである言語活動の充実の視点を論点に含みながら、パネリストそれぞれの立場からの事例に基づく発表や主張等をいただき、互いの磨き合いを通して、道徳の時間の一層の改善・充実への手掛かりを鮮明にしていきたいと考える。

◇ パネリスト

羽間 弘美（愛知県瀬戸市立東明小学校）
風間 俊樹（埼玉県越谷市立新栄中学校）
日向 正志（石川県教育委員会学校指導課）
谷田 増幸（兵庫教育大学）
藤永 芳純（大阪教育大学・名誉、本会会長）

◇ コーディネーター

永田 繁雄（東京学芸大学、本会研究委員長）

参加者へのご案内

- | | | |
|-------|---------|------------------------|
| 大会参加費 | 1,000円 | ・当日、受付にて徴収します。 |
| | | ・会員の方は「大会参加費」は無料です。 |
| 懇親会費 | 5,000円 | ・懇親会は会員、非会員を問わず参加できます。 |
| | (希望者のみ) | |
- ・第2日の昼食は、各自ご準備ください。
- ・宿泊については、各自で手配してくださるようお願いいたします。

